

課題図書：『ネクスト・ソサエティ』

～「自分を変え、組織を変え、よりよい社会をつくる」には～

若林：2020.5.12

1. 気になったドラッカーの言葉

1) 第4章 資本主義を越えて

(1) 資本主義の間違い

- ・経済を最重視し偶像化している。あまりに一元的である。(p203)
- ・人間として生きるということの意味は、資本主義の金銭的な計算では表せない。金銭などという近視眼的な考えが、生活と人生の全局面を支配することがあってはならない。(p204)

(2) 二十一世紀最大の不安定化要因

- ・何といっても人口構造の変化である。ただし、先進国における最大の問題は高齢化ではない。少子化のほうである。(p222)

(参考1)：日本は劇的な転換が得意である。一定のコンセンサスを得るや、ただちに転換する。今度の場合は、おそらく何かの不祥事が大変化の口火となる。(p219)



2) 第IV部 社会か経済か 第1章 社会の一体性をいかにして回復するか？

(1) 組織の自律性と社会の利益

- ・われわれに課された最大の課題が、それら諸々の組織の自律性を保ちつつ、しかもグローバルな企業にあっては主権国家の管轄さえ超えた自立性を保ちつつ、今日では戦時以外は失われてしまった社会の一体性をいかにして回復するかである。(p230)
- ・あらゆる組織が、それぞれの機能への絞り込みを厳しく保ちつつも、社会全体のために協同し、各々の政治機関と協力する意思と能力を新たにしていくことである。(p230)

2. ドラッカーの言葉からの思いつき ～コロナ禍後の社会～

1) 今、我々は“社会”のことを忘れてないか

- ・コロナ禍の中、世間は「命か経済か」の議論が多い。ドラッカーは「日本が“社会”を最重視することを当然としている」(p266)という。

このコロナ禍で、“社会”を最重視する事例はあるか。あるならそれは何か。

それは残るか残らないか。そもそもドラッカーが考える「社会」とは何か・・・

例：テレワーク・オンライン授業・監視システム等（デジタル改革）、様々な支援・外出自粛の文化等（無形資産）、人手不足、教育や社会保障制度、格差、SDGs 動向等、・・・



2) これから、“組織”が変わることは何か

- ・組織（政府、財界団体、企業）が目指すコロナ禍後の“社会”とは・・・

(参考2)：Society 5.0とは、創造社会であり、「デジタル革新と多様な人々の想像・創造力の融合によって、社会の課題を解決し、価値を創造する社会」である。Society 5.0は、人間だけでなく自然や技術にも想像をめぐらし、共生の道を探ることで、持続可能な発展を遂げていく。(経団連)

3) 今、“自分”を変えるには

- ・溢れる情報の中で、今、自分がどの様に情報を集め判断していったらいいのか・・・

例：気になった情報を集め、その情報の意味を考え、自分の“ことば”で表わす。そして、納得するまでその“ことば”を見直す。これを繰り返す。これら続ける。

(参考3)：グラットン「無形資産」＝生産性資産＋活力資産＋変身資産(『LIFE SHIFT』2016,p126)